

2018 年卒
Vol.1

11 月後半の就職意識調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2016 年 12 月発行)

採用広報開始 3 月、選考解禁 6 月という現行の日程で行われる 2018 年卒者の就職戦線。売り手市場が鮮明だった 2017 年卒者と比べ、2018 年卒者の就職への意識や準備状況は、どのように変化しているのだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、11 月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」72.6%。前年調査に比べ 6.3 ポイント増加
- 世界経済の先行き不透明感から、企業の採用意欲の冷え込みを懸念する学生が目立つ

2. 11 月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」19.1%、「なんとなく決まっている」57.2%
- 志望業界 1 位「銀行」、2 位「水産・食品」、3 位「医薬品・医療関連・化粧品」
上位項目は前年同期調査と変わらず

3. 企業選びのこだわり度合い

- 「人・社風に強くこだわる」58.1%、「企業規模に強くこだわる」10.8%

4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」13.8%、「大手企業」35.3%。半数 (49.1%) が大手狙い

5. 就職活動準備に関して

- 11 月までの就活準備は「学内のガイダンスに参加」69.6%、「自己分析」68.7%
- 就職準備イベントへの参加経験者は 78.4%、今後の参加予定回数は平均 3.2 回

6. インターシップの参加状況と今後の参加意向

- モニター全体の 76.4% が参加経験あり。前年同期より 1.8 ポイント増加
- 応募理由は「企業研究のため」73.5%、「職業体験のため」71.2%
- 平均参加社数 3.3 社のうち、就職したいと思った企業は 1.2 社
- 今後、参加したい時期は「2 月」84.4%、「1 月」73.4% の順。前年より早まる傾向

7. 就職活動開始状況

- 「自分の中ですでに就職活動は始まっている」83.0%
- 「就活スタート」と思う行為は、「インターシップ情報を探す・応募する」が最多 (19.0%)

調査概要

調査対象 : 2018 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 1,333 人 (文系男子 473 人、文系女子 443 人、理系男子 241 人、理系女子 176 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2016 年 11 月 15 日~24 日
サンプリング : キャリタス就活 2018 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

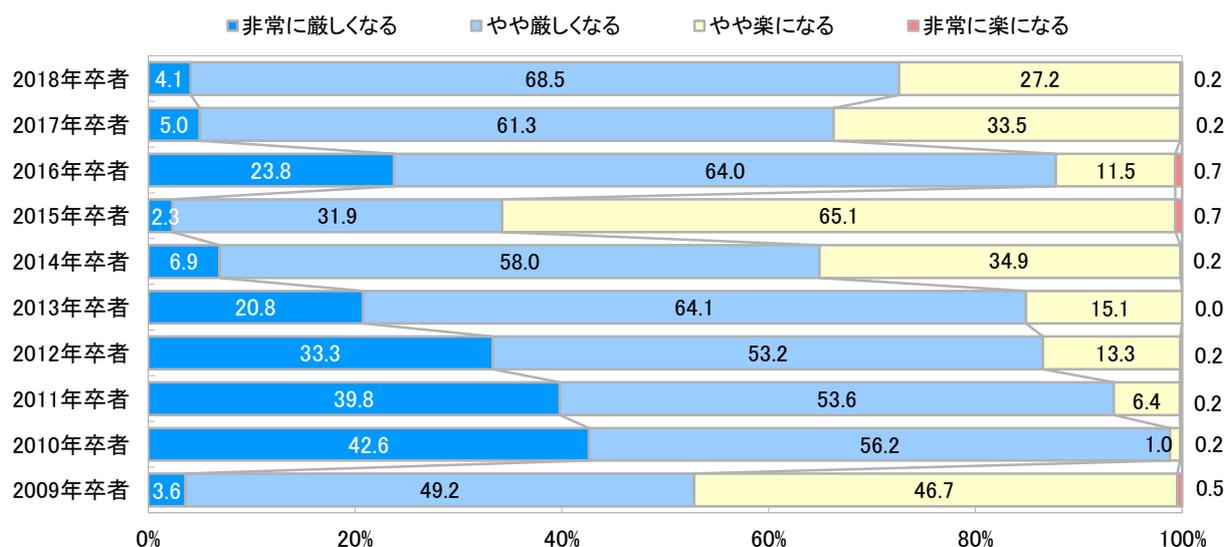
1. 就職戦線の見方

2018年卒の就活生は、自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのだろうか。その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」4.1%、「やや厳しくなる」68.5%で、厳しくなると見ている者の合計は72.6%。前年調査(66.3%)と比べると、厳しくなるとの見方は6ポイント余り増加した。

過去のデータを振り返ると、「非常に厳しくなる」の割合が大きく動いたのは、リーマン・ショック後の2009年卒者(3.6%)から2010年卒者(42.6%)にかけてだが、その後、企業が人材確保に積極的になり、その比率は毎年減少。2016年卒者は大幅な日程変更を巡る不安から、売り手市場にもかかわらず一旦増加したが(23.8%)、昨年(2017年卒者)に続き2年連続での減少となった。ただ、今回は「やや厳しくなる」が増加したことで、厳しいと見る学生の合計は7割を超えた。

厳しくなると見ている学生のコメントを見ると、英国のEU離脱や米大統領選の影響で世界経済の先行き不透明感が高まっていることから、日本国内の雇用も縮小傾向が出てくるのではないかとといった声が目立つ。日程ルールに変更はなく、先輩たちの就職活動を参考にできるといったメリットはあるものの、企業の採用意欲の冷え込みを懸念する学生の姿が浮き彫りとなった。

就職戦線の見方



■「厳しくなる」と見る理由

- アメリカ大統領選の結果を受けて、経済の不透明感が拭えない。ドル円が安定しないことから来年はリーマン・ショック時とは言えなくとも、厳しいものになるのではないかと考えている。 <文系男子>
- 2017年卒の人たちと同様に超短期決戦の中、2018年卒はイギリスのEU離脱などもあり、経済危機が迫っているとも言われているので、就活もやや厳しくなるのではないかと考えています。 <理系男子>
- 近年採用人数を増やしていた銀行などが、再び採用人数を減らし始めているから。 <文系女子>
- 英EU離脱やTPP廃止の可能性など不確実な要素が増えるため、企業は冒険やチャレンジはせず今年よりも採用を抑えるのではないかと。 <文系男子>

■「楽になる」と見る理由

- スケジュール変更もなく、先輩のノウハウが活かせる。企業も採用に力を入れているように感じる。 <文系女子>
- スケジュールが同じなので、先輩方の反省点を活かすことができると思うから。 <理系女子>
- 多くの企業がインターンを行い、困り込みを本格的に行っていると感じたから。 <文系男子>

2. 11 月後半時点での志望業界

11 月の調査時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決まっている」という回答が最も多く、57.2%。「明確に決まっている」は 19.1%で、就職活動本番まで時間はあるが、約 2 割は既に明確に志望業界を決めていることがわかる。前年同期調査と同じ傾向を示している。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、「銀行」が 20.9%で最も多く、次いで「水産・食品」18.5%、「医薬品・医療関連・化粧品」18.0%と続く。順位の入替えはあるものの、上位 10 位の顔ぶれは前年同期調査とほぼ同じだった。

文系は男子が「銀行」、女子は「マスコミ」が首位で、理系は男子が「素材・化学」、女子は「医薬品・医療関連・化粧品」が最も多かった。また、「調査・コンサルタント」は文理問わず男子で順位が高く、男子の人気業界と言える。女子では「水産・食品」の順位が高い。

志望業界の決定状況

(%)

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	19.1	21.2	20.9	14.7	22.0	21.0
なんとなく決まっている	57.2	57.3	55.8	55.1	60.2	61.9
決まっていない	23.8	21.4	23.3	30.2	17.8	17.0

志 望 業 界 (上位 20 業界)

※5 つまで選択 (%)

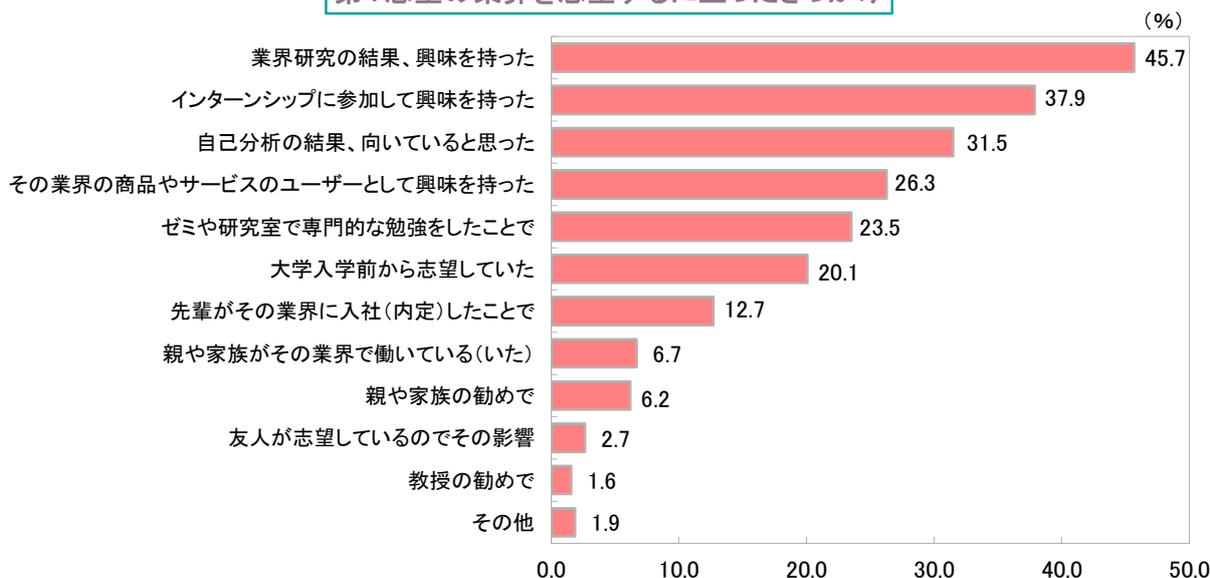
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1 銀行 ①	20.9	銀行 30.0	マスコミ 26.2	素材・化学 24.2	医薬品・医療関連・化粧品 55.5
2 水産・食品 ②	18.5	商社(総合) 26.7	銀行 24.9	調査・コンサルタント 20.7	水産・食品 45.2
3 医薬品・医療関連・化粧品 ③	18.0	調査・コンサルタント 19.0	ホテル・旅行 19.4	電子・電機 20.7	素材・化学 39.7
4 マスコミ ④	16.9	マスコミ 17.4	官公庁・団体 18.1	機械・プラントエンジニアリング 20.2	官公庁・団体 15.8
5 商社(総合) ⑤	16.5	官公庁・団体 15.4	水産・食品 15.9	精密機器・医療用機器 19.7	調査・コンサルタント 12.3
6 調査・コンサルタント ⑥	16.5	運輸・倉庫 14.6	運輸・倉庫 14.9	情報・インターネットサービス 19.2	農業・林業・鉱業 11.0
7 素材・化学 ⑦	15.6	保険 14.0	医薬品・医療関連・化粧品 14.2	医薬品・医療関連・化粧品 18.2	情報・インターネットサービス 9.6
8 官公庁・団体 ⑧	15.4	建設・住宅・不動産 12.9	商社(総合) 14.2	水産・食品 17.2	精密機器・医療用機器 8.9
9 情報・インターネットサービス ⑨	12.6	情報・インターネットサービス 12.4	保険 14.2	自動車・輸送用機器 15.7	エネルギー 8.2
10 運輸・倉庫 ⑩	11.5	商社(専門) 11.0	調査・コンサルタント 12.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.7	建設・住宅・不動産 8.2
11 建設・住宅・不動産 ⑪	10.8	水産・食品 10.7	建設・住宅・不動産 11.7	エネルギー 13.1	商社(専門) 8.2
12 保険 ⑫	10.7	自動車・輸送用機器 10.2	商社(専門) 11.0	官公庁・団体 10.6	電子・電機 8.2
13 ホテル・旅行 ⑬	10.2	ホテル・旅行 9.6	情報・インターネットサービス 10.0	銀行 10.1	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.5
14 自動車・輸送用機器 ⑭	10.1	エネルギー 9.4	人材紹介・人材派遣 9.7	マスコミ 9.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 7.5
15 エネルギー ⑮	9.3	証券・投信・投資顧問 9.1	OA 機器・家具・スポーツ・玩具他 9.1	鉄鋼・非鉄・金属製品 9.1	マスコミ 6.8
16 電子・電機 ⑯	9.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.3	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.7	商社(総合) 8.6	商社(総合) 6.8
17 商社(専門) ⑰	9.1	素材・化学 8.3	自動車・輸送用機器 8.4	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.6	自動車・輸送用機器 6.2
18 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑱	8.8	信用金庫・労働金庫・信用組合 8.0	百貨店 8.1	建設・住宅・不動産 7.6	フードサービス 5.5
19 精密機器・医療用機器 ⑲	8.4	教育 6.6	エンターテインメント 7.8	通信関連 7.6	その他サービス 4.8
20 機械・プラントエンジニアリング ⑳	6.8	電子・電機 6.6	エネルギー 7.1	運輸・倉庫 6.6	機械・プラントエンジニアリング 4.8
			印刷・パッケージ 7.1		
			素材・化学 7.1		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

第 1 志望に選んだ業界について、志望するに至ったきっかけを複数回答で尋ねた。最も多かったのが「業界研究の結果、興味を持った」で半数弱 (45.7%) が選んだ。「その業界の商品やサービスのユーザーとして興味を持った」(26.3%) を大きく上回り、消費者目線、あるいは憧れやもともと興味というよりは、就職を意識して研究した結果、志望先として選んでいる点が興味深い。早めの絞り込みを意識しているようだ。

また、「インターンシップに参加して興味を持った」が 2 番目に多く (37.9%)、インターンシップが就職先としての興味の入り口として機能していることが確認できる。

第 1 志望の業界を志望するに至ったきっかけ

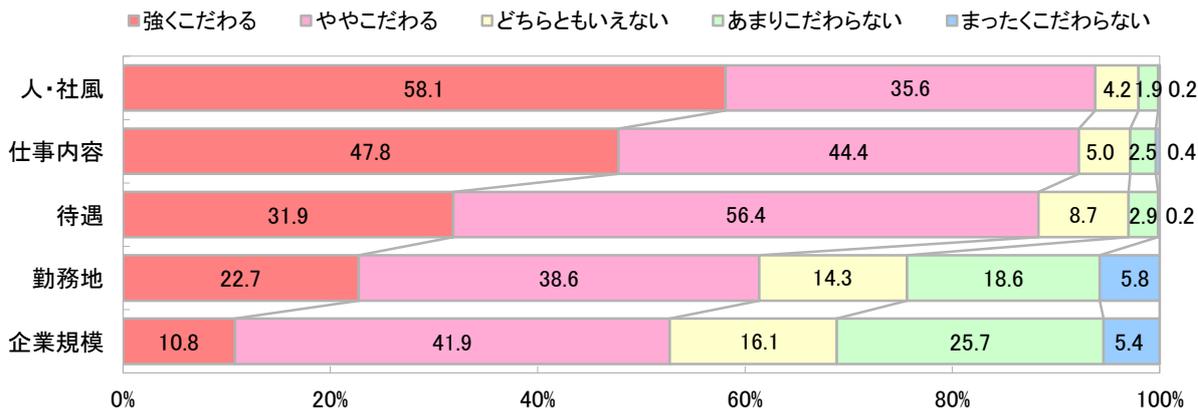


3. 企業選びのこだわり度合い

会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、どの程度こだわっているのかを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「人・社風」(58.1%) で、「ややこだわる」(35.6%) をあわせると 93.7% にのぼる。「仕事内容」がこれに続く。反対にこだわり度合いが低いのは「企業規模」で、強くこだわる学生は 1 割程度 (10.8%)。ただ、「ややこだわる」(41.9%) をあわせると半数を超える (52.7%)。

全体的に見た目より中身重視と取れる結果だが、社風や仕事内容は学生が就活中に知れる部分には限りがある。ミスマッチ防止のためにも、理解が進むような取り組みや工夫が企業側にも必要だろう。

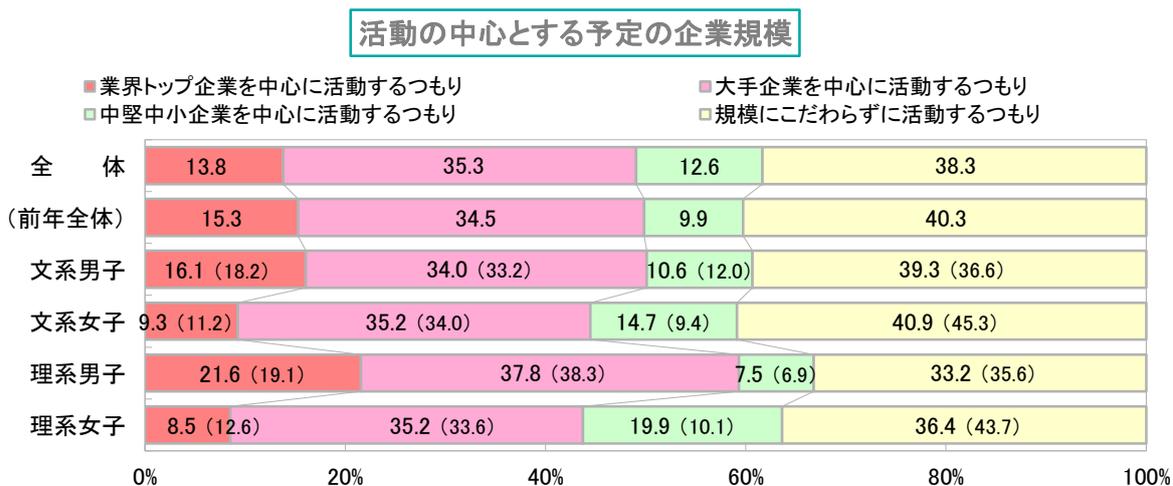
企業選びのこだわり度合い



4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ねたところ、「業界トップの企業を中心に活動するつもり」13.8%、「大手企業を中心に活動するつもり」35.3%で、いわゆる大手狙いの学生は約半数(49.1%)。2 ページで確認したように就職戦線が厳しくなると予想する学生がやや増えた割に、前年調査との大きな変化は見られなかった。

これを文理男女別に見ると、男子は女子に比べ「業界トップ」が高い傾向が見られる。特に理系男子で高く、「業界トップ」(21.6%)と「大手企業」(37.8%)をあわせた大手狙いは6割近くにのぼる(59.4%)。



※()内は2015年の同調査での11月現在の数値

■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

○業界トップの企業に入社して、優秀な上司の方々や同期たちに刺激を受けながら仕事をしていきたいし、日本にとどまらず世界を股にかけて活躍できるような人材になりたいから。 <理系男子>

○トップ企業に勤めることで、トップである所以やトップで居続けることの難しさ、大切さを学べると考えるから。 <文系男子>

■「大手企業」を中心に活動する理由

○女性が働き続けられる環境が良いと思っており、そのような環境が進んでいるのは比較的大手が多いから。 <文系女子>

○大手企業は扱っている分野が幅広く、その中で自分に適している仕事を探せるため。 <理系男子>

○安定も一つの理由だが、世間への影響力が強い企業において働きたいという気持ちが高いから。 <文系男子>

■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

○地元で働きたいという思いが強く、経営資源を集中していて転勤の少ない中小企業が適していると思ったから。 <文系男子>

○1人に任せてもらえる仕事の幅が広く、アットホームな雰囲気の印象を持っているから。 <理系女子>

■「規模にこだわらず」活動する理由

○企業の規模よりも、企業内の雰囲気や人の方が大事だから。 <文系女子>

○規模で企業の質を見極めることはできないと考えているから。 <文系男子>

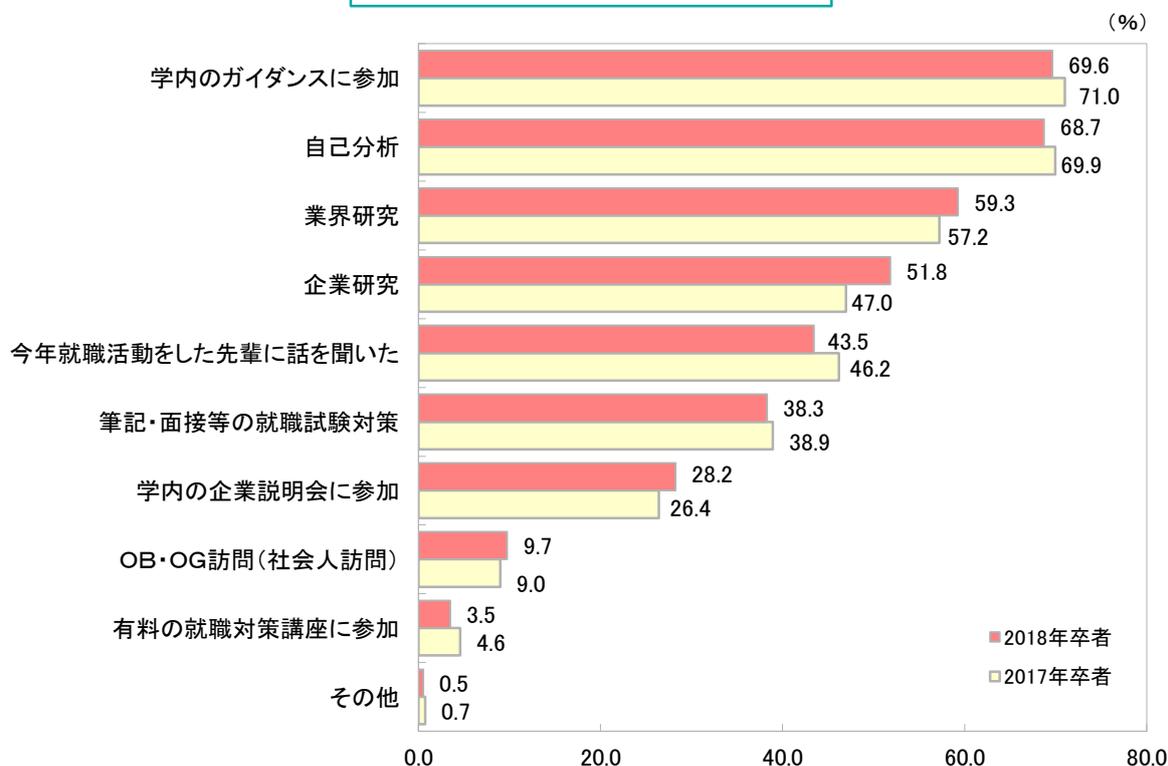
5. 就職活動準備に関して

就職活動の準備を始めていると回答した学生（全体の 98.6%）に対し、準備として行った内容を尋ねた。「学内のガイダンスに参加」が最も高く（69.6%）、「自己分析」が僅差で続く（68.7%）。上位 2 項目が前年調査よりもポイントを下げている一方で、「業界研究」（59.3%）、「企業研究」（51.8%）はそれぞれ前年より増加し、先輩たちよりも早めに取り掛かった学生が増えた様子がわかる。

また、就職情報会社が主催する就活準備イベント（インターンシップイベント、業界研究イベントなど）への参加状況を見ると、全体の 78.4%が「参加経験あり」と回答。前年同期（63.5%）を約 15 ポイント上回り、多くの学生が早期から会場に足を運んだことがわかる。一人あたりの平均参加回数に大きな変動がないことを踏まえると、こうした準備イベントが一般化し、裾野が広がったことが読み取れる。

今後の参加予定回数の平均は 3.2 回で、3 月の就活本番までの期間に、あと 3 回程度は参加する見込みだ。

就職活動準備でこれまでに行ったこと



就活準備イベントへの参加経験

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加経験あり	78.4	63.5	79.7	81.5	71.8	76.1
参加経験なし	21.6	36.5	20.3	18.5	28.2	23.9

就活準備イベントの参加回数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
これまでの参加回数(平均)	3.3	3.5	3.6	3.2	3.0	2.7
今後の参加予定回数(平均)	3.2	3.4	3.5	3.3	3.0	2.5

※就職情報会社が主催するものについて調査

6. インターンシップの参加状況と今後の参加意向

インターンシップの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の 76.4% だった。前年同期調査より 1.8 ポイント増加しており、5 年連続で増加傾向が続いている。多くの学生がインターンシップに強い関心を寄せていることが読み取れる。平均参加社数を見ると、ショートプログラムへの参加が多く、「1 日以内のプログラム」が 2.6 社で、前年より 0.2 社増加した。

さらに、応募理由を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「企業研究のため」(73.5%) で、「職業体験のため」(71.2%)、「業界研究のため」(64.6%) と続いた。仕事を体験したり、業界について広く知りたいというよりも、特定の企業への理解を深めることを目的に参加したいと考えている学生が多いようだ。

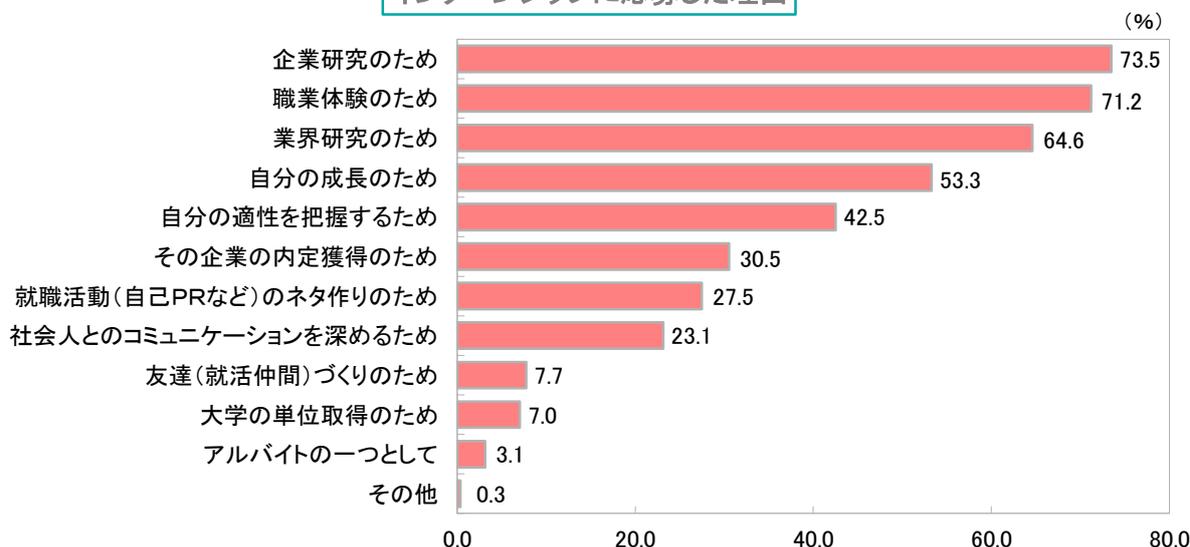
インターンシップ参加経験



インターンシップ参加社数／平均

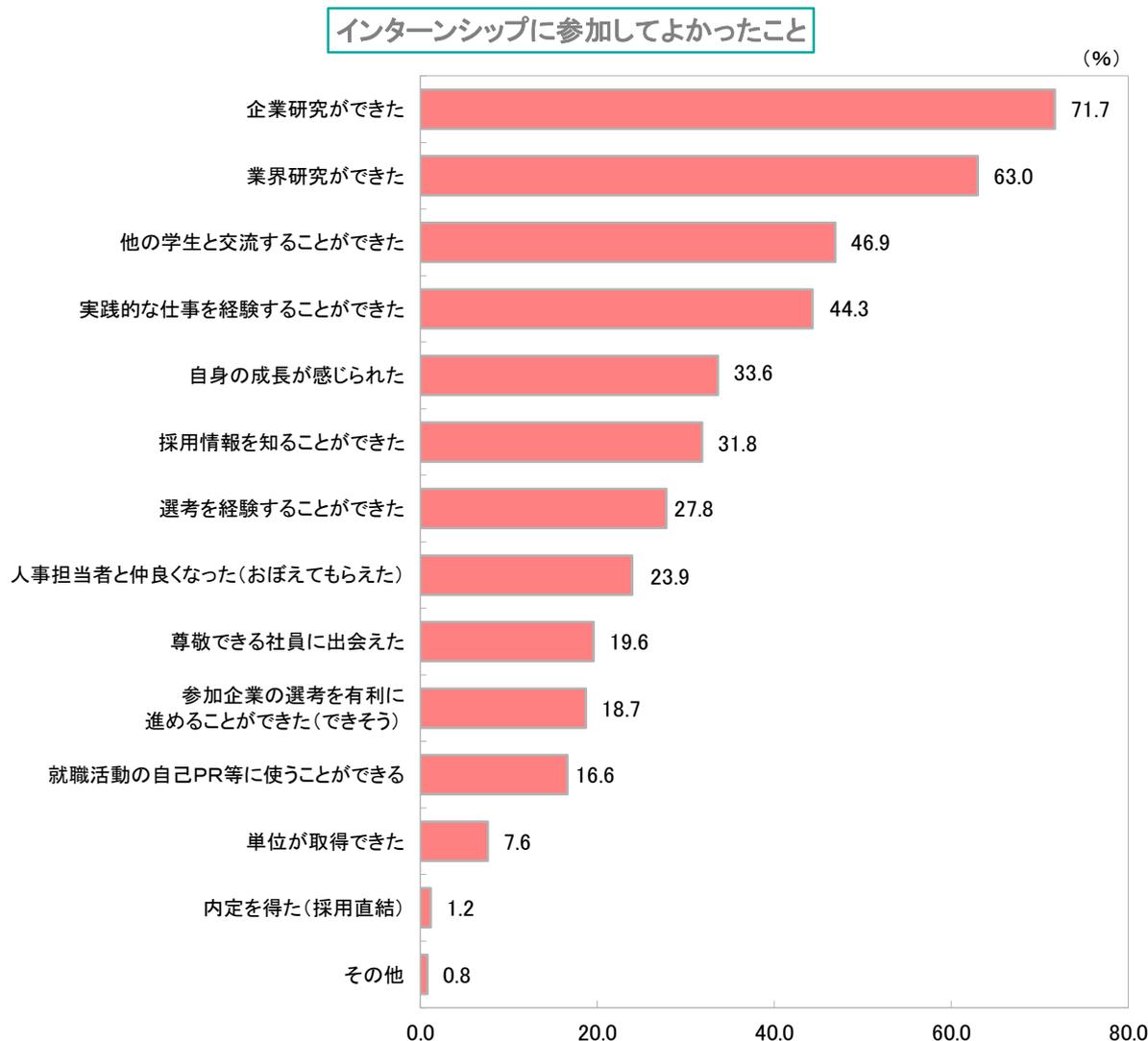
	(社)					
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	2.6	2.4	2.7	2.7	2.3	2.2
3日程度のプログラム	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4
5日以上プログラム	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.4

インターンシップに応募した理由



インターンシップに参加経験のある学生 (全体の 76.4%) に、インターンシップに参加してよかったことについて尋ねたところ、「企業研究ができた」(71.7%) が最も多く、次いで「業界研究ができた」(63.0%) だった。インターンシップの応募理由として企業研究が 1 位だったが、その希望通り、個別企業への理解を進めることができたと感じる学生が多かったようだ。

また、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、7 割強 (72.9%) の学生が「あった」と回答した。インターンシップ平均参加社数 3.3 社のうち、就職したいと思った企業は 1.2 社。インターン参加企業を高い確率で就職先として意識していることがわかる。



インターンシップ参加企業への就職意向と、就職したいと思った社数/平均

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職したいと思う企業があった	72.9%	75.4%	70.9%	74.3%	70.0%
就職したいと思う企業はなかった	27.1%	24.6%	29.1%	25.7%	30.0%
インターンシップ参加社数(平均)	3.3社	3.6社	3.5社	2.9社	2.7社
就職したいと思った社数(平均)	1.2社	1.3社	1.1社	1.2社	1.1社

※「インターンシップ参加社数(平均)」は、日数にかかわらず参加経験を持つ人が分母
 ※「就職したいと思った社数(平均)」は、就職したいと思う企業が 0 社と回答した人も含む

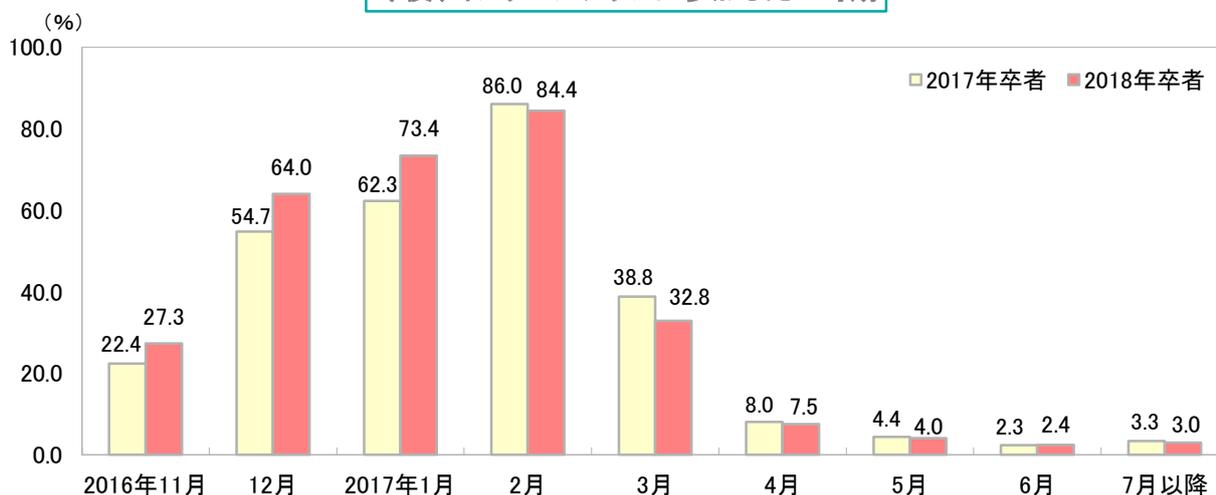
今後のインターンシップ参加意向については、9割強(91.4%)が「参加したい」と回答。特に、すでに参加経験を持つ層では94.4%と高い数字を示している。経験のない層でも8割を超え(81.5%)参加意向は強い。具体的に参加したい時期を尋ねると、「2月」が最も多く(84.4%)、「1月」(73.4%)、「12月」(64.0%)と続いた。なお、前年と比べて1月は11.1ポイント、12月は9.3ポイントそれぞれ増加しており、学生の動きが早まっていることがわかる。

また、今後何社のインターンに参加したいと考えているのかを開催日数別に尋ねると、「1日以内のプログラム」は平均3.2社、「3日程度のプログラム」は1.9社、「5日以上プログラム」は1.7社と、短期開催のインターンシップの方が社数が多い。3月の採用広報開始の前までに、効率よく企業研究したいと考えている学生が多いようだ。ちなみに経団連は、現状の「5日間以上」という制約を2019年卒者採用の新ルールから撤廃する見通しだ。

今後のインターンシップ参加意向



今後、インターンシップに参加したい時期



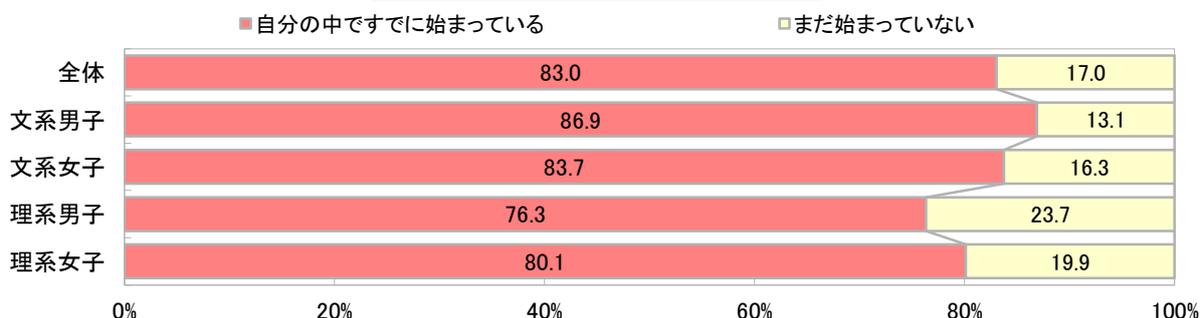
今後、インターンシップに参加したい社数/平均

	(社)							
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	インターン経験あり	インターン経験なし
1日以内のプログラム	3.2	2.9	3.4	3.3	2.8	3.1	3.4	2.6
3日程度のプログラム	1.9	1.9	2.0	2.0	1.7	1.8	2.0	1.7
5日以上プログラム	1.7	1.8	2.0	1.7	1.5	1.5	1.8	1.4

7. 就職活動開始状況

今回アンケートに回答した学生は、自身がすでに就職活動を開始していると感じているのだろうか。自分の中ですでに就職活動が始まっていると思っているか尋ねたところ、8割強(83.0%)が「すでに始まっている」と回答した。開始時期は6月(20.9%)が最も多く、6月までの合計は4割強(41.3%)に上る。さらに、何をしたこと就職活動が始まったと考えているのか尋ねると、最も多かったのは「インターンシップ情報を探す・応募する」(19.0%)で、「自己分析を始める」(17.5%)、「就職情報サイトに会員登録する」(14.9%)と続いた。多くの学生が、夏季インターンシップに向けて、6月に企業探しを始めたり、応募のための自己分析を始めたりしたことを、「就活スタート」と捉えているようだ。

就職活動の開始状況に対する考え

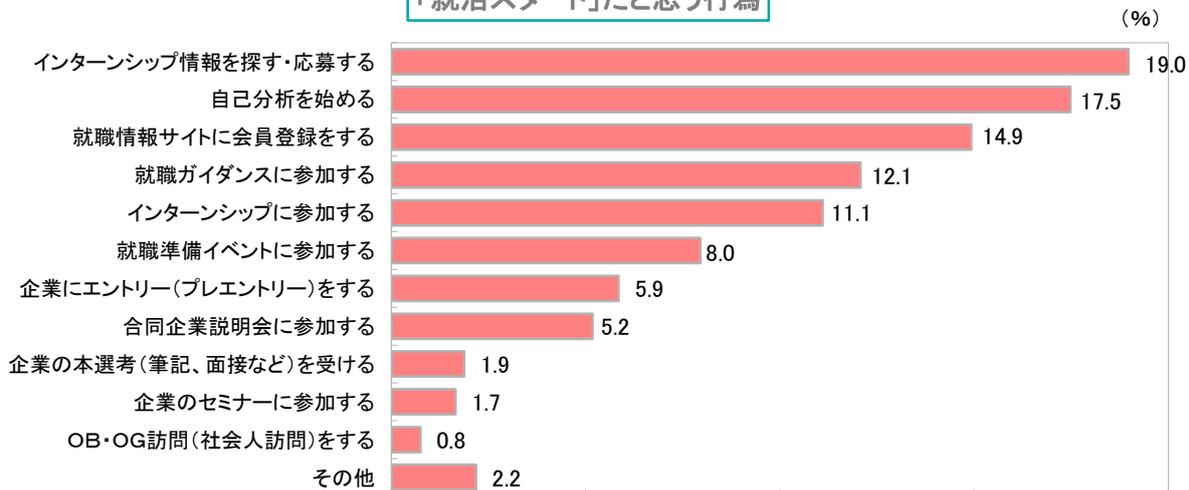


就職活動を開始したと思う(する予定)時期



※自分の中ですでに始まっていると回答した人は「開始したと思う時期」、まだ始まっていないと回答した人は「開始予定時期」

「就活スタート」だと思ふ行為



※単一回答で調査